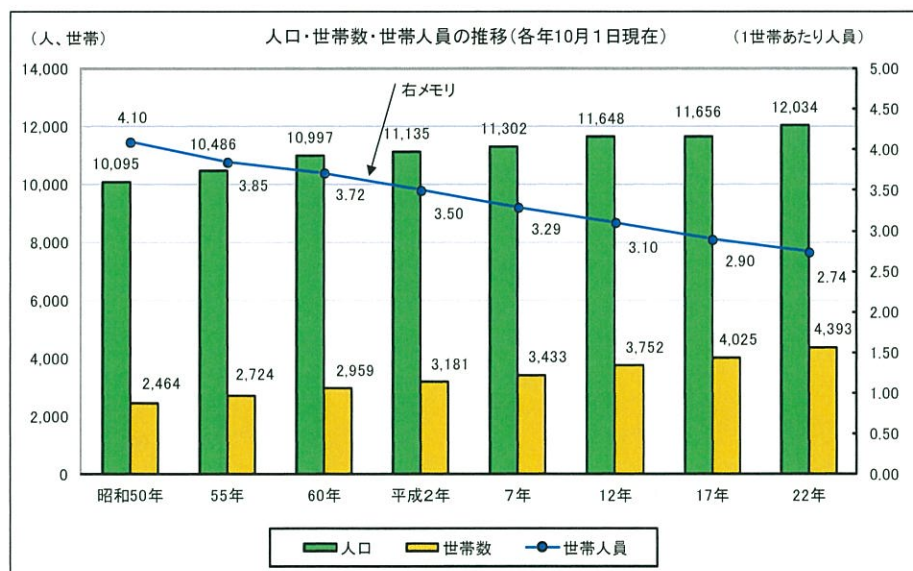


4. 人口・世帯数等の動向

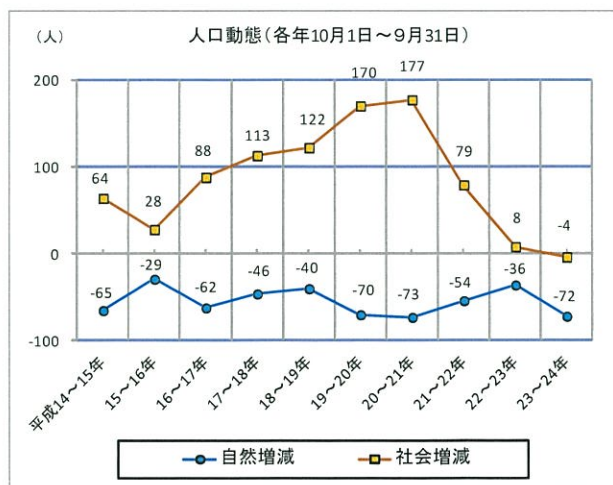
人口は増加傾向がみられ、世帯数は核家族化等に伴い大きく増加し、平成17年～22年にかけて人口が3.2%、世帯数が9.1%の増加率を示し、平成22年で12,034人、4,393世帯となっています。少子高齢化、特に高齢化が進展し超高齢社会となっています。社会増加数は平成16年以降増加傾向にありましたが、平成21年以降減少に転じています。

5歳階級別人口では、平成12年～22年の10年間で60歳以上と30～39歳の年齢層で増加し、10～30歳の年齢層で減少しています。

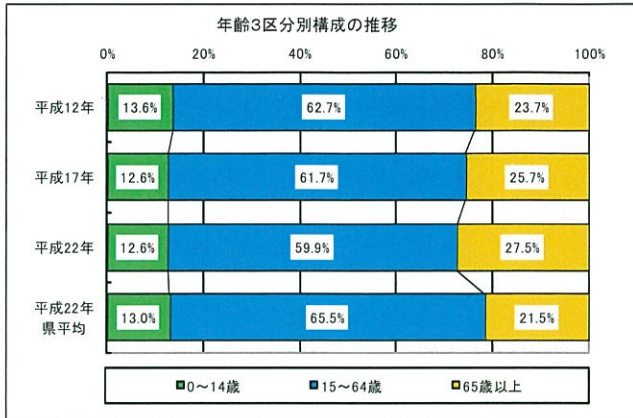
高齢者のいる世帯は、一般世帯の約半数あり、その約2割が高齢単独世帯で、10年間で高齢者世帯が17%、高齢単独世帯が61%増加しています。



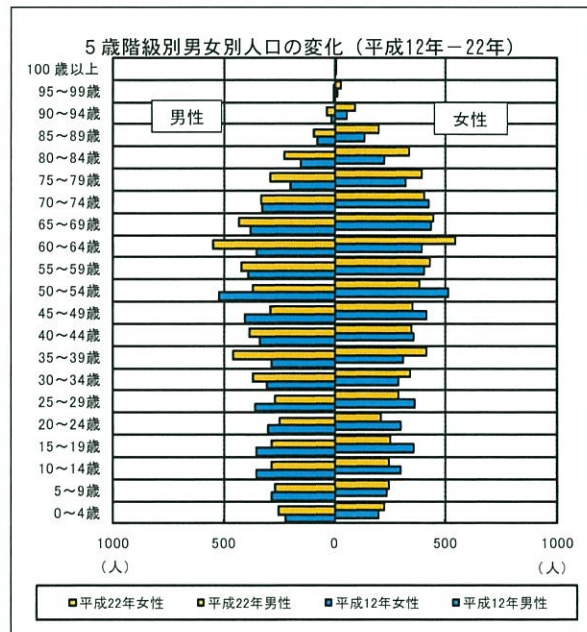
(資料：総務省各年国勢調査)



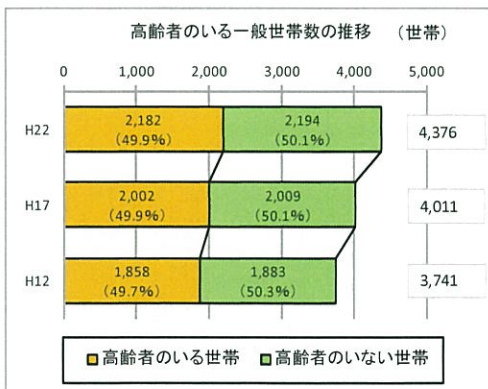
(資料：千葉県毎月常住人口調査)



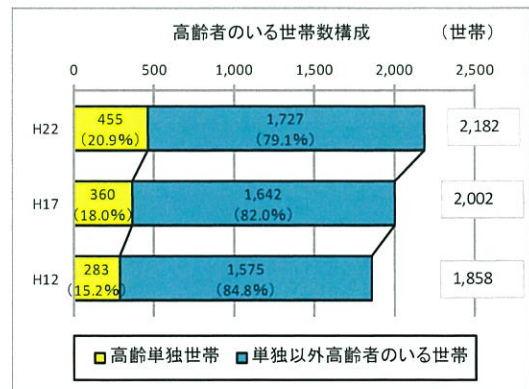
(資料：総務省各年国勢調査)



(資料：総務省各年国勢調査)



(資料：総務省各年国勢調査)

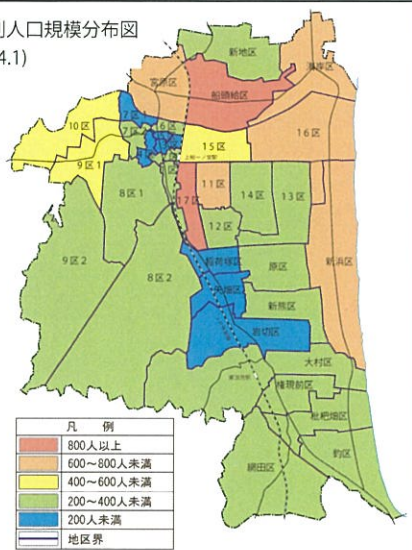


(資料：総務省各年国勢調査)

地区別では、17区と船頭給区の人口規模が800人以上と特に大きくなっています。10年間では、11区・12区・17区（282人増）、新浜区（264人増）の増加数が多く、増加率では8区－2（91％）と新浜区（69％）が大きくなっています。一方、宮原区と1区・10区・3区で減少数（50人以上減）・減少率（10％以上減）共大きくなっています。

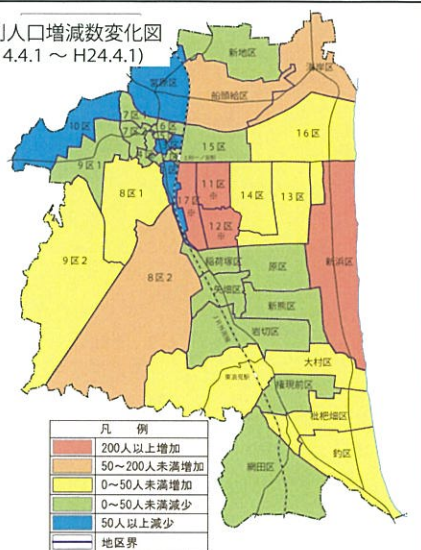
高齢化の状況を見ると、5区、1区、綱田区、琵琶畑区、4区で老年人口比率が36％以上と比較的高い一方、人口増加率が比較的高い、17区、新浜区、8区－2では低くなっています。少子化の状況では、1区、稲荷塚区、綱田区等で年少人口比率が低く、少子化の進展がうかがえます。

地区別人口規模分布図
(H24.4.1)



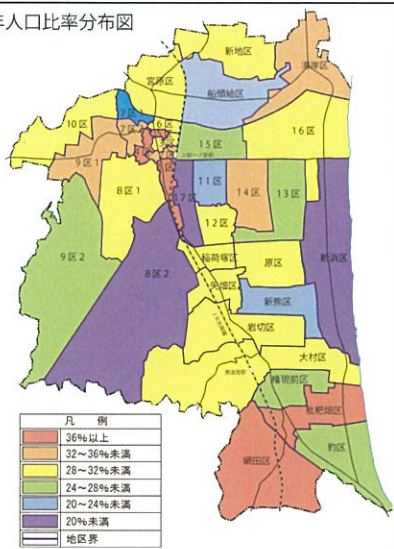
(資料：一宮町資料)

地区別人口増減数変化図
(H14.4.1～H24.4.1)



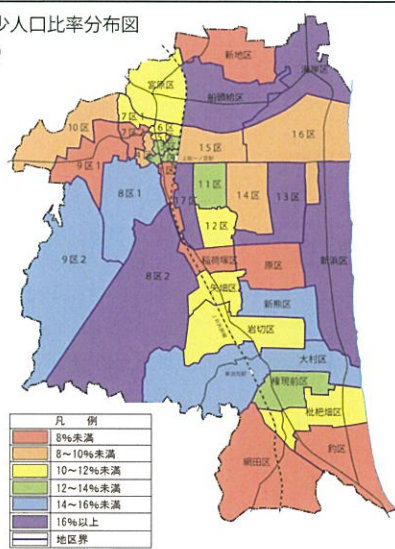
(資料：一宮町資料)

地区別老年人口比率分布図
(H24.5.31)



(資料：一宮町資料)

地区別年少人口比率分布図
(H24.5.31)



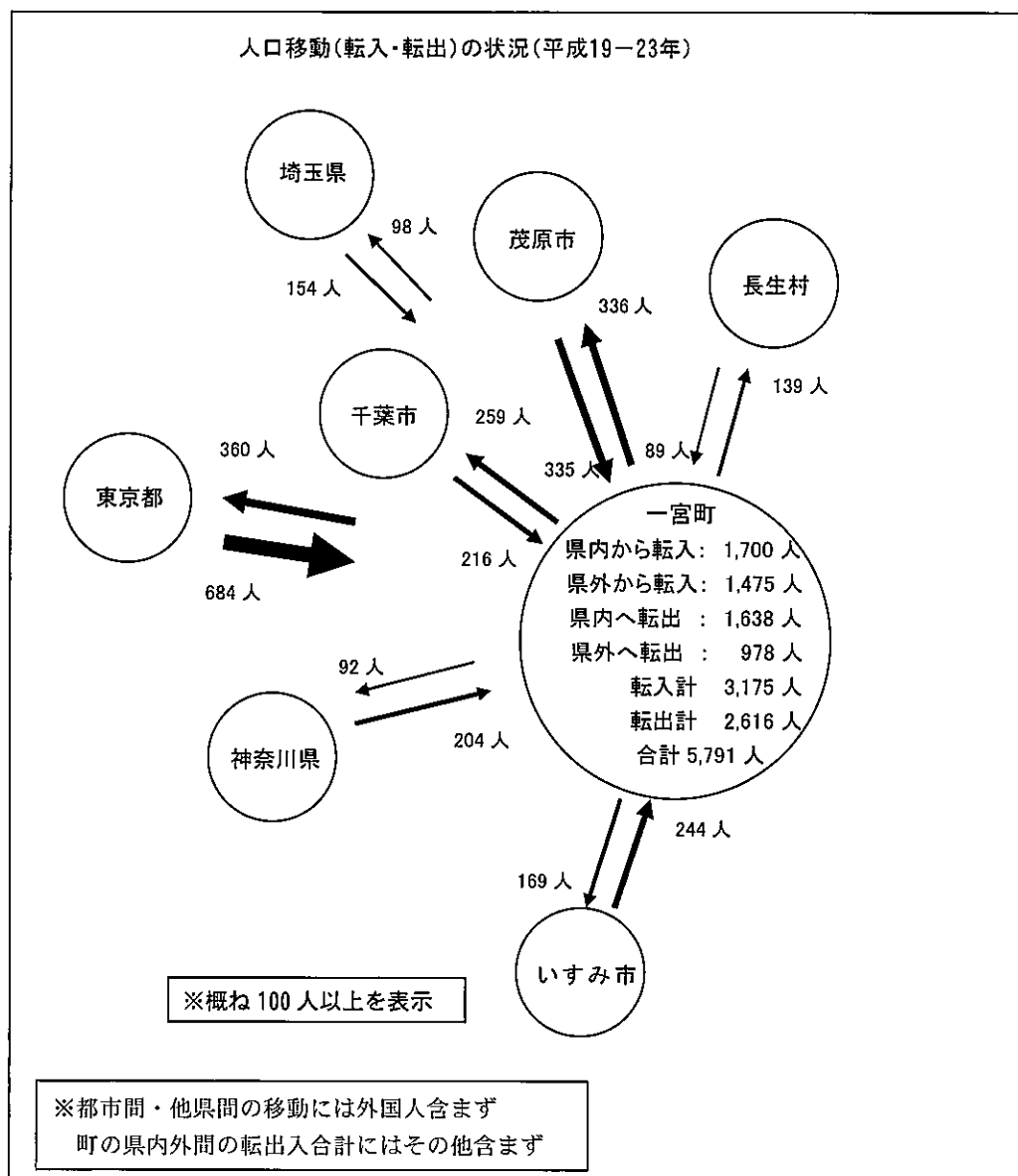
(資料：一宮町資料)

※ 平成17年以降11区と12区が、11区・12区・17区に分割されたため平成14年～24年の変化は3地区を合算して求めた値としました。

5. 人の動き

(1) 人口移動

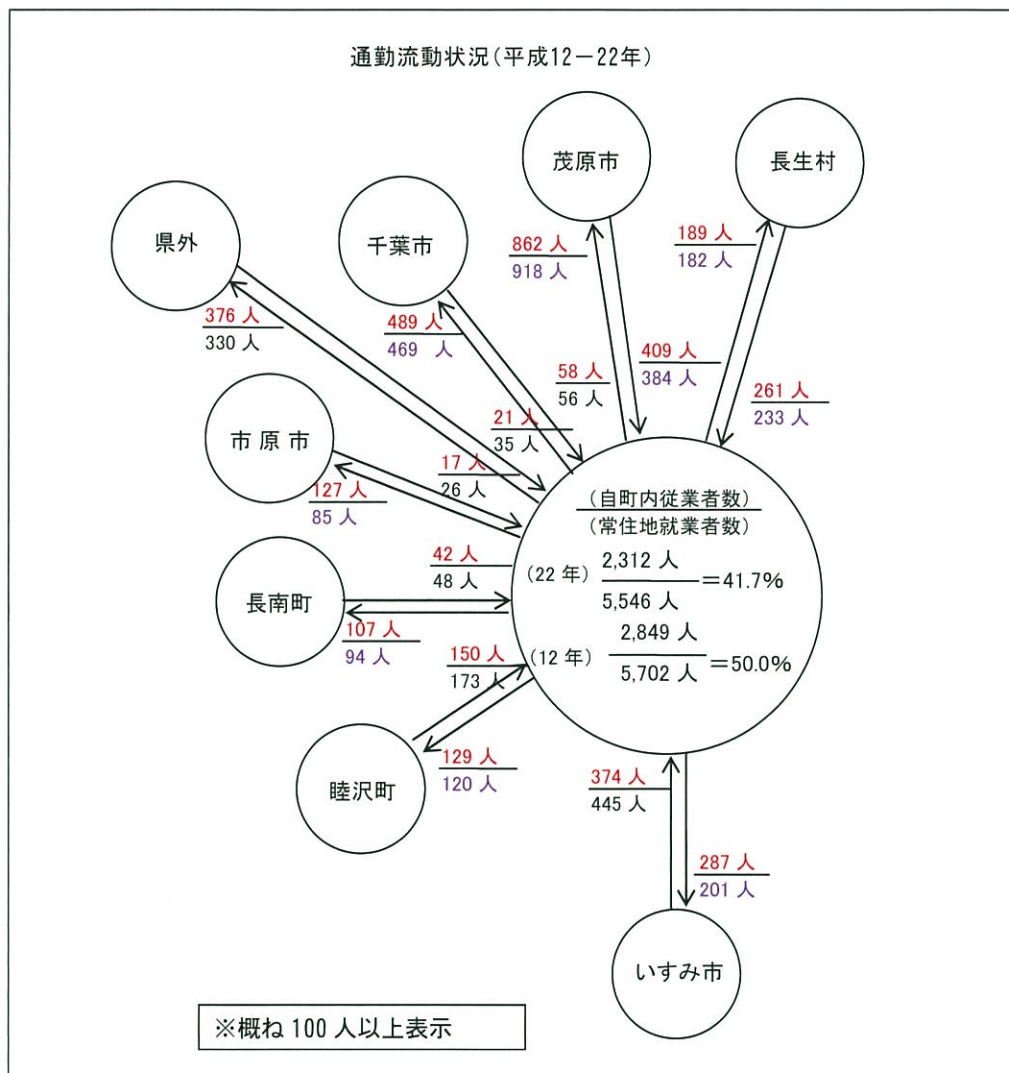
人口移動は、全体の57%が県内間移動となっています。5年間で約600人の転入超過であり、東京都、茂原市、千葉市、いすみ市間の人口移動数が多く、特に東京都からの転入が多く300人以上の転入超過となっています。千葉市間、長生村間が転出超過であり、いすみ市間、神奈川県間、埼玉県間が転入超過となっています。



(資料: 千葉県毎月常住人口調査)

(2) 通勤流動

通勤者の地元従業率は平成22年で約42%と低く、地元従業者数は10年前に比べ19%減少しています。茂原市間（大幅な流出超過）、いすみ市間・長生村間（若干の流入超過）の通勤者が多く、また千葉市間、県外間が大幅な流出超過となっています。就従比は平成22年で74%と約1,400人の流出超過となっています。



(資料：総務省国勢調査)